

グループ① 「市民主役のまちづくり」, チーム名「サ（イ）バエージェント」

市民主役のまちづくり ～「熟議」手法を使って～

明治大学創設者出身地派遣プログラム

経営学部2年 安井奈緒子
商学部2年 高橋凌士
政治経済学部3年 田中佑弥
法学部3年 黒木俊太郎

熟議の参加者

明治大学生 4名
(株)セカンドアカデミー ササキ 様
鯖江市市民協働課 4名
鯖江市連合青年団 副団長 オカイ 様
鯖江市連合青年団 事務局 タカシマ 様
NPO法人 マツダ様
まちづくり実行委員会委員長 ミノワ 様
計 13名

テーマ

* 市民主役のまちづくり
～「熟議」手法を使って～

<課題>
これまでの行政には限界がきている。
一部の市民は、それに危機感を感じたり、
市政に参加する必要性を感じ、行動に移している。

→もっと多くの人に「市民参加」を促すには…？

現状共有

県外に
行ってしまう
若者
5割強

市政に
興味がない
市民
多数

→県外に出てしまう若者が多く、地域に根付いて次代を担う人が育っていない
→市内に住み、まちづくりに参加している市民は少数派

現状共有

* <行政>
H22 市民主役条例の制定
まちづくり委員会を設定

市民がまちづくりに興味をもった時の
受け入れ態勢を整えた

現状共有

鯖江市行政

中間層

市民

区長会

現状共有<調査できた中間層>

鯖江をよくしたい!

鯖江市連合青年団(鯖職)

しいの木クラブ(北中山地区青年団)

学生団体with

③鯖江市市民協働課

森本北中山公民館長

齋藤新鯖江区長会長

箕輪委員長

現状共有

彼らの「まちづくり」の手法は、
バラバラであった。
到達したい部分＝鯖江市をよくしたいと
いう目標は同じ であることがわかった。

■地域の主導者

-北中山地区
公民館館長 森本さんの例

まちづくりに興味をもったきっかけ
もともと市の職員であり、市の財政難や時代のトレンド(E,新しい公共etc...)に敏感だった

まちづくりの手法
・合宿留学の運営に若者を従せる
・地域・青年や団体を語ることで地元に対する興味をいかにする
・北中山街づくり計画の策定
・アジサイ1万本計画

<発言より>
まちづくりに対する意欲は地域差がある。→生きやすさにつながる
・若者がまちづくりの会議に入ると、新たな視点が得られる(引かずられそう!)
・まちづくりに継続性を持たせるためには、絶対に参加を強制してはいけない

■まちづくりに参画している若者

鯖江市連合青年団
しいの木クラブ
学生団体with

<青年団>
・こうしたコミュニティを見つけられたことがうれしい!そこを通じて、地域活動への満足感が得られた。

<学生団体with>
・コミュニティ形成は、活動を通してできていく。
Ex.社会に出る準備として、市外での経験を積みたい。異なる考えをもった人と協働したい。

まちづくりに興味をもったきっかけ
成人式イベントの実行委員会に誘われて、お祭りを企画して、もともと視察をたくさんしていたので、公民館に就職したのち、視察で青年団の存在を知って...

何してる?
鯖江市への出張、地域活性化プランコンテストの審査、北中山街づくり委員会

■行政 -鯖江市市民協働課の例

まちづくりに興味をもったきっかけ

市の職員であるから...、従来の行政活動に疑問を感じて...

何してる？

- ・まちづくり委員会の選定・運営
- ・市民まちづくり応援団養成講座
- ・提案型市民役事制度化

<発言より>

・市役所はもはや様々な事業を展開しており、手は尽くした状態。

・従来の事業をもっとbetterにしたい。そうした企画の立案段階から、市民の声がほしい。

Thinking Time

それではこれから熟議を始めます。

この話し合いでは、
①手法はバラバラであるが、まちがよくなればいいという想いは、共通していることへの合意をまず、目指します。
②市は色々な事業を提案しているのに、何で参加してくれないの？/Q.楽しいことが結果的にまちづくり、じゃダメ？最初からは何が重い

③そのうえで、何かそれぞれの中間層が横につながって1つの事業案を固めるというのではなく、今日聞いたことを持ち帰り、各コミュニティの中で共有、かつ今後のまちづくりにそれが活かすということをみなさんの目標とします。
私たちは、話し合いをもとに、11月の企画立案をさせていただきます。

各立場に対して、思ったところを率直に、ポストイットに書き込んでください。
地域の主導者/若者/行政はそれぞれ色分けしています。

制限時間は5分とします。

そして、熟議へ

* ここまでの資料は、昨日の熟議で示したものと同様です。

この後、ポストイットを利用し、各中間層についての意見・感想をざっばらんに10分間を区切って、集めました。

その結果、わかったことをご報告いたします。

熟議の結果

熟議の結果、多様な市民によるまちづくりに対する意見収集・情報交換・想いや観のうちの共有ができた。

何かひとつの事業立案を結果とするのではなく、
提携や提携方法の可能性を多数見いだせた。

熟議参加者が、利害・権力等に基づく緊張関係を越えて、他の参加者に抱いていた認識の修正を行うことができた。

【熟議参加者の声】

「青年団が楽しく、さらに楽しいだけの集まりではなく、市に対して何かしたいという想いも持っていることがわかり、本当に良かった(市民協働課 橋本 幸恵)」

「50年代、組織に所属している者同士の会議はこれまでにやっていたことがなく、非常に刺激的かつ有意義だった(市民協働課 高橋課長補佐)」
Ex. 青年団から出た「ハードル高いですね」

明治大学生・高橋の場合

【熟議を通じて得た結果】

・普段関わりあえない市民同士が対等と同じ土俵で話し合えたことに価値を感じた。

・提案・問いかけに対する応答が同時に実現できていた。
提案に対して、手ごたえが感じられた。

Ex. 大学生「企画策定段階から市民が会議に参加できるようにする？」(即座に行政が答えを提示できた。

Ex. 若者の想いを聞いて、行政がその想いに合い、なおかつ委託を頼みたい事業をその場で提案→市民がその場で依頼に対して回答。

明治大学生・田中の場合

【熟議を通じて得た結果】

・熟議において関係性のある立場同士のコミュニケーションがほかの団体が自分の目で確認できた。

「あつ、ここも仲良かったんだ」→親密感、私も話せるかも!

・意見内容をポストイットで貼付したこと、視覚的に強く印象づけられたと思う。この資料を保存しておくことで、いつでも話し合ったその時の記憶に戻ることができる。

・熟議の初め、ポストイットでプレインストーミングをしている最中、話し合いの方向性が定まるかどうか、不安を覚えた。

明治大学生・黒木の場合

【熟議の可能性】

* 熟議は会議の内容が印象に残りやすい。熟議が終わると、参加者は他の人の意見・知識を各々インプットした状態で帰宅する。また熟議には一つの結論を求めないため、「あの人が言うってたな...」など家でも比較的自由に考えることができる。そのひきずった想いが、また次につながる。

* 地域コミュニティ熟議を通して知り合いができる。

明治大学生・安井の場合

【熟議を通じて得た結果】

* 行政が「人手が足りない」と言ったことに対して、この熟議の輪の中では何も発言が出なかったことが価値であると感じた。

* 利害関係や上層関係を気にせず、気兼ねなく褒めることができる。

Ex. 青年団は一回なくなったが、再生しつつあることについて、行政から青年団に対して目の前で賛辞が送られた。

・熟議参加者の傾向を掴み、すべての人が話し合いで意見を出せるように時間配分や空気を常に熟議進行役が意識する必要はあると思った。

これから考えていきたいこと

* 熟議の開催者の選定

今回、人集めをしたのは市民協働課(行政)だった。

進行したのは、明治大学生だった。

では、今後鯖江市で継続的にまちづくりのための熟議をしようといった時に、誰が発案するのかわからないのは大きな課題であろう。(例えば、熟議進行役を「市」が采配し、運営したとすれば、それは『市民主役のまちづくり熟議方式を使って』といえるのだろうか?)

連絡先

今回の熟議・中間報告会を通して、お考えになったこと、感じたことをぜひ下記アドレスまでお寄せください。
11月の本報告の参考にさせていただきます。

グループ1 リーダー 安井奈緒子

yacoty06@gmail.com

http://www.facebook.com/na0ko.yasui/

ご協力よろしくおねがいいたします。

本日はご清聴いただきありがとうございます。

グループ② テーマ「中心市街地の賑わいの創出について」

中心市街地の賑わいの創出について

メンバー：山下龍太郎・池田大地・亀ヶ谷沙織・大塚真由

1

目次

1. 賑わいの定義	3ページ
2. 商店街が抱える問題点	4ページ
3. 商店街の現状	5ページ
4. グループ案(回覧板)の目的	7ページ
5. 回覧板の利点	8ページ

2

賑わいの定義

- * 人の集まり
 - 地域の人
 - 地域外の人
- * 商店の元気

3

商店街が抱える問題点

- * 後継者不足
 - 子への相続
- * 売上低下
 - 大型店舗の台頭とPR不足
- * 考え方
 - 各店舗の価値観の相違による一本化の停滞
- * 店舗の魅力
 - 商品・サービスの差別化戦略の不在

4



グループ案

6

回覧板の目的

- * 情報共有の場の創造
- * モチベーションの向上
- * 商店街主体の活動
- * 各商店同士の連携

7

回覧板の利点

- * 低コスト
- * 手渡しによる商店街間のつながりの形成

8

ご清聴ありがとうございました

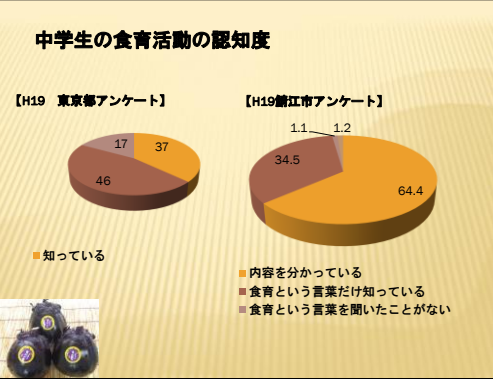
9

グループ③ テーマ「市民協働による食育推進」、チーム名「チーム健康」



1、鯖江市の食育の現状
 <ライフステージに応じた食育>

◎鯖江独自の食育活動が進んでいる



2、課題となる世代へのアプローチ方法
 食育は、つながってはじめて食育

<ライフステージに応じた食育>

食育が難しい世代・・・

◎より効果的な食育推進が必要！

課題② 高校・大学生

現状・課題
 食を選択し始める頃
 →みだれやすい
 ・ダイエット
 ・買い食い
 ※実際鯖江市の学生は
 “やせ”体型が多い

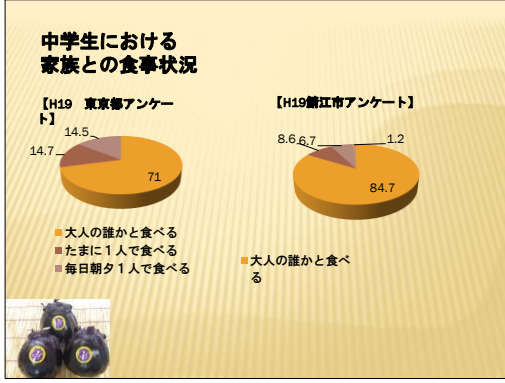
解決策
 同世代のアプローチ
 大学生の鯖江進出
 流行をつくる
 健康を意識する瞬間
 にアプローチ
 ・スポーツ
 ・受験期

目次

- 1、鯖江市の食育の現状
- 2、課題となる世代へのアプローチ方法
- 3、まとめ・今後の鯖江市食育の発展へ

例) 幼稚園、小学校、中学校での食育

- ・市内の全小学校に学校農園を設置
- ・給食の器には地場産業の漆器を使用
- ・食育〇×クイズ大会
- ・親子参加の料理教室
- ・栄養士による栄養相談
- ・食育に関する来訪相談・電話相談



課題① 保育園

ママ
 共働きで忙しくて
 食や子育てのイベントに
 参加できない

高齢者
 食の第一線を退いた高齢者
 生きがい・新たな役割が必要

現状・課題

解決策
 保育所のお迎えの時間帯に
 食のプロの方が保育所に向く仕組みを作る
 (→食品の表示の見方、食材や飲み物の選び方、子育ての
 相談・指導・情報提供)

どんな仕掛けか？
 市役所・食改の方など→ボランティア人材リストの作成→定期的に派遣

メリット
 ①WIN・WINの関係
 ②ママ→集めるのは無理→集まっている所に向く
 ③保育所の栄養士さんのレベルも向上

3、まとめ・今後の鯖江市食育の発展へ
 食育は、つながってはじめて食育

食育はどこかの世代でやって終わりではない。
 一生つながっていかなければならない

ある世代への成功している食育活動の勢いを
 他の世代の食育活動にも伸ばしていく


ビジョン

食育の町「鯖江」

食育をブランド化

本当の意味での「食でつながるみんなの鯖江」

食育の充実を理由にたくさんの人が鯖江へ～



グループ④ テーマ「ホームタウンスポーツ」、チーム名「鯖江スポーツ」

鯖江市
さばえ型生涯スポーツ

伴、伊藤、内田、坂田

さばえ型
生涯スポーツとは？

いつでも、どこでも、
だれでも、いつまでも

↓

レクリエーション

レクリエーションを利用した企画

スポーツ合コン

スポコンのメリット

楽しさ
スポコン
出会い 健康

スポコンの概要①

1泊2日型ツアー

- ・福井県内から参加者募集
- ・他の類似したイベントとの差別化
- ・時間、精神的なゆとり
- ・利用の少ない平日の昼間に施設を利用
- ・スポーツ以外のイベント企画

スポコン概要②

誰もがができるスポーツ競技

- ・運動会(アツアツリレー、赤い糸伝説、ペアウォーキング、etc....)
- ・ニュースポーツ(キンボール、スティックリング、マレットゴルフ、ソフトバレー、ドッジビー、etc....)

スポコン概要③

スポーツ以外の魅力ある企画

- ・自分で収穫した鯖江の特産物(吉川なす、越のルビー)でパーベキュー
- ・お弁当交換、お弁当コンテスト
- ・絵葉書交換
- ・漆器会館、メガネ会館訪問。西山公園散策
- ・メガネ工場見学、体験学習

スポコン概要④

継続的に開催する

- ・SNSの活用
⇒ スポコン公式facebook、twitterページを作成
- ・シーズン制の導入
- ・参加者の流動性

スポコン概要⑤

PR方法

- SNSの活用
⇒ スポコン公式facebook、twitterページを作成
- インパクトのあるキャッチフレーズ
- 公式HPの開設
- 体験談の掲載

課題

- ニュースポーツの偏見への対応
- インストラクターの確保
- スポーツの得手、不得手の格差
- コスト面での折り合い
- 男女比率

ご清聴ありがとうございました